

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2022.01.No293

1月号

目次

新春を迎えて	1
令和3年特別活動費助成事業	2
特別活動費事業決定報告	4
Coffee Break	5
まちづくりフォーラム報告	6
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>



新春を迎えて

一般社団法人北海道建築士会 会長 高野 壽世

新年 明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。会員の皆様には、新型コロナウイルス感染症の拡大により日常生活や業務に影響を受けているなか、本会の運営にご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は、コロナの収束を願って迎えた年でありましたが、振り返ってみますと、切れ目なく緊急事態宣言、まん延防止等の措置が発出され一年の大半が制約の多い期間となってしまいました。一昨年は、このコロナ禍により多くの事業が中止または延期となり、皆様にご迷惑、ご不便をおかけしましたが、昨年は会員をはじめ建築士の皆様への支援が滞ることのないように、対面方式と同じ成果が得られることを確認したうえで、オンライン等のICTを積極的に活用し事業を推進してまいりました。一方、昨年の全道大会網走大会については、オンライン等のICTを活用すると、全道大会が網走支部の期待する地域貢献には程遠く、その目的からも大きく乖離したものになることから、残念ながら中止という苦渋の決断をいたしました。全道大会網走大会を楽しみにしていた会員の皆様には大変申し訳なく思っております。そして何よりも足かけ四年の長きにわたり大会準備を進めていただいた網走支部の皆様には、心からお労いと感謝を申し上げます。

その全道大会であります。今年には北海道建築士会の設立から70年を数える節目の年であり、**第44回全道大会空知大会**をその70周年の記念大会と位置づけ開催いたします。空知支部では9月2、3日の開催に向けて着々と準備を進めております。コロナ禍も落ち着き、多くの皆様が参加いただける、賑やかな全道大会となりますことを心から願っております。

昨年スタートしました、本会のPRや会員等の資質向上、地域住民との協働をテーマとする支部等の

新たな事業を支援する**特別活動費助成事業**については、令和3年度は、札幌支部の「WEB版パズルでお家を考えよう」に助成され、そのソフトが完成いたしました。このソフトにつきましては、是非とも各支部での事業において活用していただきたいと思っております。令和4年度は釧路支部の「釧路の建築70年の歩み」「まちなか再生シンポジウム」、札幌支部「まちづくり連続講座」の3事業に助成が決定されたところです。いずれも精力的かつ時機を捉えた事業であり、本会のPR等に大きな効果が期待されるものと考えております。

今年早々から、私たちが特に留意しなければならない事柄としては、まずは、昨年11月、日本建築士会連合会が国交省と「**建築物木材利用促進協定**」を結んだことを踏まえ、本会においても脱炭素社会を目指す建築物等の木材の利用促進について協議を始めなければならないこと、また、現在、社会資本整備審議会で審議されている建築に関わる様々な課題について、その方向性が明確になりつつあることから、**建築基準法の改正**の動きに十分な注視が必要となっていることの二点があります。

今年も、ワクチンや治療薬そして医療体制整備を前提とした一定の制約のもとでの日常生活が予想される場所です。まさに私たちはこの災禍とともに生活や社会活動を考えていかなければならないと思っております。本会では、この二年間の様々な経験から学んだICTの活用などを生かし事業を進めていきたいと考えております。今年も「**地域の誰もが知っている。なくてはならない建築士会**」を目指し、会員増強、組織力強化を見据え各種事業を進めてまいりますので、皆様のご理解、ご支援を引き続きお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

“WEB版パズルでお家を考えよう” 出前授業を終えて



札幌支部青年委員会 小林 祐 司

【はじめに ～感謝の意を込めて～】

令和3年度よりスタートした特別活動費助成事業の記念すべき第一号として選出された、「WEB版パズルでお家を考えよう」の開発が無事終了しました。そして令和3年12月1日に、開発したツールを使用した出前授業を札幌市内の小学校で行うことが出来ましたことも併せてご報告いたします。WEB版パズルの完成にいたるまで、皆様のお力添えをいただきながら、本事業のスタートを切ることが出来ましたことを、改めて感謝申し上げます。



北海道建築士会札幌支部

けん利書記

アプリのトップ画面

【WEB版パズル ～概要～】

それでは成果品として完成した「WEB版パズル」の概要と機能、遊び方を紹介いたします。本ツールは概ね小学生から中学生程度までを対象とした、わかりやすくかつ、楽しく住まいや住まいの考え方を学ぶためのアプリです。インターネットを介してブラウザ上で動作するプログラムとなっており、ネットに繋がるパソコン、タブレット、スマホ等での操作が可能です。マウス及び指による操作に対応しています。対象の学校に建築士を派遣し、このアプリを使用した住教育を行うことをワンセットとしています。既にGIGAスクール構想は始まっておりますので多くの学校が1人1台のタブレットPCを所有し



アプリの操作画面

ており、派遣する建築士は必要最小限の持ち物で授業を実施できます。アプリの操作方法はシンプルかつ直感的に操作できる仕様となっています。

【WEB版パズル ～遊び方～】

実際の遊び方は2部構成になっており、前半に住まいについての座学、そして後半にパズルを使用した住まいづくりとなっております。子供たち自身が建築士となり、家を建てて欲しい依頼主から「住まいについての条件」を提示されます。提示された条件をクリアするようにパズルを使って依頼主が満足できる家を作成します。単純に家を作るのではなく、いかに提示された条件をクリアし、住みやすいプランを考えるかということに重点を置いて考えたシステムとなっております。また依頼主の条件はフレキシブルに変更することが可能です。今回の出前授業では①リビングと庭の関係性、②客室の作成、③寝室とトイレの関係性について条件を提示しましたが、内容は都度自由に設定できます。学年が低ければ条件を少なくしたり簡単にしたり、学年が高ければもっと複雑な条件にしてみたりなど、対象に合わせて難易度を調整できるのが特徴となっております。

【今後の展望 ～3つのステージ～】

次に事業の展望についてですが、いくつかのステージを想定しています。最初のステージはこれから既に始まっている札幌市内における出前授業の実施です。来年には札幌以外の小学校での実施も計画しております。そうしてまずは出前授業のノウハウの蓄積と実績を作り、それらを活かして他支部の会員が自分たちだけで実践できるようにマニュアルと派遣する講師用の動画を作成して公開することです。

2つ目のステージでは用意したマニュアルと講師用の説明動画を活かして北海道建築士会各支部での自主的開催を目指します。自主的開催といってもそこまでハードルは高くありません。マニュアルと動画の通りやれば、他に用意するものではありませんので容易に実施できます。

最後に3つ目のステージとして、北海道以外の各ブロックでの自主的開催を目指します。ここからは効果的な広報、SNS等を使った情報発信など、今までとは違う活動が必要となってきますが、我々札幌支部青年委員会は全ての情報、ツールを無償で公開し提供いたします。

【本事業の目指すところ】

この事業の目的は教育であり、その先に将来、建

築士を目指したいと思う子供が少しでも増えてくれることを願いとして込めています。地道ではありますが、必要な一歩と信じて皆さんの更なるご協力を賜りたいと考えております。

以上が今回開発いたしました「WEB版パズルでお家を考えよう」の詳細な内容と今後の展望となります。

【出前授業のご報告】

次に令和3年12月1日に札幌市内の小学校にて実施した、今回のアプリを使用した出前授業について報告いたします。当該小学校さんは毎年出前授業を引き受けていただいております。我々の活動にもご賛同いただいております。対象となる学年は5年生2クラスで約60名の生徒に授業を受けてもらいました。コロナ感染予防に配慮して、場所は教室ではなく体育館をお借りしました。我々札幌支部青年委員会から6名、本部事業委員会から1名、開発に協力していただいたロケットスタジオさんから4名の見学者を加え、計11名での実施です。



札幌支部青年委員会とロケットスタジオさん

大人たちに囲まれての授業ですが、子供たちは気後れた様子もなく、いつも通りの雰囲気といった様子で始まりました。例年と違うのは、1人1台のタブレットPC「chromebook」を持参しているところです。事前に担任の先生から伺っていた話だと、PCの使い方なんてあつという間に覚えちゃったよ！とのことでした。パズルの操作方法についても実際の所、やり方がわからないという質問は1つもありませんでした。子供の頭は柔軟だなあと感心しました。



前半の座学の様子

座学を一通り終え、いよいよパズルの実践です。アプリでのプラン作りが始まると、子供たちはタブレット操作に夢中です。友達や先生と相談しながら楽しそうに考えています。もっと建築士と相談しな

がらプラン作りが出来ると良かったのですが、今後の課題ですね。



アプリでプラン作りの様子

従来のシールとハサミを使ったプラン作りでは、パーツの切り貼り、貼って剥がしてなど、プランを考える上で手間がかかることで試行回数を増やせないという問題がありましたが、デジタル化したことによってこれらの組み立て行為がとても簡単になりました。そのせいか、現状のシステムでは平屋建てのプランしか作れないだろうという想定をしていましたが、自分なりに創意工夫して2階建てを作ってしまう凄いい子も現れました。結果的にデジタル化の強みを存分に活かされたのはとても良かったです。そして最後は学内ネットワークの共有スペースに「さつえい」で保存したプランを提出してもらい、時間の許す限り、どんな風に考えてプランを作ったのか皆に向けて発表してもらいました。



発表の様子

プラン作成から提出、自分の考えを発表という流れがデジタル化によってとてもスムーズに行うことが出来ました。講師の持ち込み荷物も最小限で済み、授業が終わった後も片付けはほとんどありません。我々が意図して狙った効果はほぼ実現出来た結果となりました。

【最後に】

この事業が最初の一步を踏み出せたのは皆様の後押しがあったからです。ここから失速することなく、北海道が誇れる事業への成長を目指して今後の活動に取り組んでまいります。結びといたしまして、本事業にご興味を持たれた支部様がございましたら、札幌支部までお気軽にご連絡ください。

令和4年「特別活動費」の事業決定する！

事業委員会 委員長 丹波泰哉



ブロック会及び支部が住民や行政と一体となって活力ある地域を目指すきっかけとなるように、新たな事業に対して助成する仕組みが昨年より施行されました。事業初年の令和3年は、札幌支部1件が助成事業として決定しました。次年の令和4年助成申請募集を行ったところ3件の申請があり、選考の結果すべて助成事業として決定しました。助成決定事業名やその選考評価等について以下のとおりです。

■ 助成事業決定(1) / 札幌支部

「(仮)建築、景観、まちを通してまちづくり活動を総合的に捉える連続講座・プレ開催」

(■助成額 105,500円)

〈目的〉

まちづくり活動の現状は、昨今その専門性の特化に重点が置かれ分業化の傾向にある。まちづくりを担う人材にはそれぞれの分野をつなぐ役割が求められ、まちづくりの多様な要請に総合的に対応することや地域間の連携等の役割が期待されている。それらの観点からまちづくり活動を総合的に捉えられる感覚が持てる連続講座を開催するものとする。

〈内容〉

多岐に渡るまちづくり活動事例を「建築」「景観」「まち」に整理し、実践者からのレクチャー等を通してまちづくり理論を知り、加えて、まちあるきを行い、まちの連鎖する魅力や彩りを実感する機会を設ける。なお、本事業は本格実施の前の検証のための「プレ開催」となる。

〈選考評価・要望〉

- ・対象事業が3つの視点のいずれかが含まれた内容となっており、評点平均も9割超を獲得している。
- ・講座を通し、建築士会及び建築士とまちづくり活動を行う他団体との交流・協働のきっかけとなる。
- ・町内会活動をされている方にも参加して頂き、つながりを広げて欲しい。

■ 助成事業決定(2) / 釧路支部

「(仮称)釧路の建築70年あゆみ展」

(■助成額 200,000円)

〈目的〉

釧路支部創立70周年を期に建築に関しての「あゆみ」を通して、建築技術の発展内容を展示し地域住民にPRする。地域社会の人に対し、「建築」に対する興味の上昇を図ると共に、建築と建築士の関わりを強く知って頂くことを目的とする。

〈内容〉

- ・各「あゆみ」コーナーを設置
 - ①住まい ②間取り ③住宅設備・建材
 - ④大工道具 ⑤建築製図 ⑥職人
- ・住宅相談コーナー、キッズコーナーの設置

〈選考評価・要望〉

- ・対象事業が3つの視点のいずれかが含まれた内容となっており、評点平均も9割を獲得している。
- ・多くの人とつながりが持てる、誰もが興味のある内容であり、主催する建築士会のPRにつながる。
- ・地元出身の建築家などのコーナーを設け、興味を持ってもらえる内容として欲しい。

■ 助成事業決定(3) / 釧路支部

「(仮称)空き家・空き店舗から釧路のまちなか再生を考えるシンポジウム」

(■助成額 200,000円)

〈目的〉

近年、少子高齢化・人口減少時代の到来により「空き家問題」は深刻度を増しており、釧路地域においても大きな問題となっている。近い将来実施される予定の釧路駅建替を契機とし、まちなかの再開発も取りざたされていることから、多くの市民と共に空き家・空き店舗の有効活用を検討し、「まちなか」のあるべき姿を考えるシンポジウムを開催する。

〈内容〉

- ・シンポジウム
 - ①基調講演：「まちなか」の現状及び計画、再生
 - ②パネルディスカッション
- ・プレ・セッション
 - ①まちなか・まちあるきワークショップ
 - ②意識調査：アンケート調査

〈選考評価・要望〉

- ・対象事業が3つの視点のいずれかが含まれた内容となっており、評点平均も9割超を獲得している。
- ・建築士会が主導してこのテーマの事業を開催することに対し、大いに評価する。
- ・まちづくり団体との協力体制が築かれることから次年度以降もこの体制を活かして連携事業を行って欲しい。

■3件とも「建築士会のPR」「会員等の資質の向上」「地域住民との協働」の3つの視点を含んだ素晴らしい内容となっております。今後の各事業発展に期待すると共に、他の事業活動の参考や模範となって頂きたいと思っております。

まだまだ活動制限がありますが、この「特別活動費」が今後のブロック会及び支部活動再開のきっかけになればと思います。

岩内支部

岩内町へようこそ!!

理事
土居 建郎



昨年度から今年度にかけて新型コロナウイルスの影響で、例年、岩内支部として行ってきた活動も行うことができず、厳しい状況が続いています。

こうした状況は、私たち支部の活動だけではなく町全体に暗い影を落としています。11月に入ってから、感染拡大が徐々に縮小するなど、明るい兆しも見えてきています。「このまま収まってくれれば」と願いながらも、コロナと共存しながら社会活動を再開していくための様々な取り組みが始まっている中で、今回は、皆様に岩内町へお越しいただくことで少しでも街の活性化につながればという思いで岩内町の魅力を皆様に伝えたいと思います。

岩内町は人口1万1千人ほどの小さな町ですが、道内の町村の中

でも1位2位を争うほど人口密度が高く、市街地から温泉街やスキー場のある山や釣りやマリアクティビティが楽しめる海に行くにも車で10分かかるコンパクトさが魅力の町です。歴史を感じる寺社仏閣や昔ながらの商店街、味自慢の寿司や、新鮮な海の幸や山の幸が楽しめる飲食店、生活に必要な様々なお店や施設がぎゅっと詰まっています。

夏は、充実した施設・設備を誇る本格的なオートキャンプ場が人気で、マリブルの海の向こうに積丹半島を望み、夜ともなると街の夜景や漁火、星空の演出が最高で、キャンプ場近くの円山展望台からの夜景は2018年に「日本夜景遺産」に認定されました。

2020年、新たに18ホールが追加され全36コースとなった国際パークゴルフ協会公認のパークゴルフ場も清々しい眺めや、高原を渡る風も心地よく、爽やかな汗を流すことができます。

冬は、岩内町の北斜面に展開さ

れるスキー場「I WANAI RESORT」で、パウダースノーを満喫できるキャットツアーが人気の的となっており、規模は小さいスキー場ですが、眼下に広がる日本海へ滑り込んでいくような感覚は格別です。

この他にも、紹介しきれないくらい素敵な場所が岩内町にはたくさんありますので、「岩内町 観光サイト」をご覧ください。岩内町へぜひ足を運んでいただければと思います。

会員一同、皆様のお越しをお待ちしております。



日本夜景遺産「岩内夜景」

十勝支部

この時代の士会活動

スキルアップ事業委員会 委員長
萩野 圭介



私事ですが、10月に今年度の北海道建築士会の会長表彰として「永年表彰」を頂戴いたしました。

想い起せば20代の頃に資格を取得して、社命によって建築士会に入会してから35年の月日を数えるに至り、永いといえば永いでしょうか？

入会后、特に30代の頃には建築士会の青年部の活動に積極的に参加し、ずいぶん色々な勉強をさせていただいたと実感しております。

自分自身は現支部長や現副支部長の方たちが中心となって、活発に活動していたところに乗っかっていただけの感はありますが、刺激的で楽しい時間を過ごしてきたと記憶しています。

その活動は支部内に収まらず、道東を中心に道内各支部との交流も盛んで、「青年サミット」と銘打った意見交換会などを年に数度開催するなどして、道内の建築士会全体(特に青年部)が盛り上がっていたのではないのでしょうか。当時オンネトーで行われていた「湯けむりサミット」などは、特に思い出深いものがあります。

私自身は、仕事の都合で40代の頃は単身赴任で十勝を離れ、建築士会の活動からも遠ざかっていた時期が10年ぐらいましたが、近年になって理事に就任させていただき、合わせてこの「スキルアップ事業委員会」の委員長という役割を指名いただきました。

「スキルアップ事業委員会」というのは十勝支部独自の組織ではなからうかと思いますが、これまた現支部長や副支部長たちが中心となって、会員の知識の習得や技術の向上を目指して、特に若い人たちに向けての建築の基礎的な勉強会や魅力的な建築物の見学会など、支部事業のひとつとして推し進めてきたものですが、その更なる活性化を目指して正式に委員会として位置づけられ、私が担当することとなったものです。

就任初年度の令和2年2月、ちょうど帯広市の新総合体育館が完成を迎え、早速見学会を開催し多くの会員に参加いただきました。

そして、さて次はと計画を練っていたところに、新型コロナの感染が本格的に拡大し始め、ひととひとに集合しての事業の開催がなかなか困難な状況となり、1年間は満足な事業が行えないこととなってしまいました。

そこで、令和3年度はZoomを

活用したWebセミナーなどを企画していこうという方針で、数度の会議をZoom開催とし、委員の意見を頂戴しながら、「アスベスト規制の強化について」というテーマで、講師を招いての有意義な勉強会を実施することができました。

また、新型コロナの感染状況を見ながら、建築中の「音更町道の駅」の施工現場見学会も対策を講じた上で開催させていただきました。

新型コロナの感染もずいぶん落ち着いてきて日常に戻りつつあるような気はしますが、「湯けむりサミット」が行われていた時とは時代の変化を感じつつも、環境に応じて工夫しながら、会員の役立ち事業を皆で協力し進めていければと思っています。



「音更町道の駅」現場見学会の様子

まちづくりフォーラム・オンライン



まちづくり委員 佐藤 将吾 (士別支部)

2021年10月23日(土)に「まちづくりフォーラム・オンライン ～当麻町から学ぶ 木のまちづくり」を開催しました。

まちづくりフォーラムは、地域のまちづくり活動にふれ、そのまちのことや、地域が抱える問題などを知ることで、今後のまちづくり活動へのヒントを見つけ出せる「場」となることを目的に開催しています。

例年ですと6～7月に開催している「まちづくりフォーラム」ですが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、今年も開催が危ぶまれましたが、何としても開催したいという委員会の強い思いがあり、延期の末、オンラインではありますがこの時期に開催することができました。



オンライン開催の様子

第10回目となる今年のフォーラムは、「木のまちづくり」に先駆的に取り組んでおり、食育・木育・花育の3育でまちづくりを進める当麻町のまちづくりを学びました。



前半は、当麻町長 村椿哲朗様より「当麻町のまちづくりについて」当麻町のまちづくりの戦略、取組（木育・食育・花育の取組、ブランド戦略など）、町産材活用の取組（公共建築物、住宅建設助成、公民連携事業（サウナバスなど））などについてご講演いただきました。

「全部ある当麻町」を掲げ、移住ウエルカム体制ある・子育て環境ある・仕事ある・自然ある・新しいチャレンジある等の様々な環境を整え、稼ぐ自治体を目指して企業と協力し、民間の力をうまく活用することで、お金を掛けずに、当麻町をPRし、2020年は38人社会増となっていることや、ウッドショックの危機を当麻町が体現してきた先駆的な取り組み「地材地消」の理念が全道、全国の注目が集まるチャンスと捉えている。などのお話が聞けました。

また、木育として、中学校で3年間使用する学習机を自分たちで製作し、卒業時にももらえるという話では羨ましいとの声上がるなど、とても興味深い講演でした。



当麻町長 村椿哲朗様

次に、当麻町森林組合 加工販売課 課長 高沢 博様より当麻町の森林資源の状況、流通・加工・活用の状況について情報提供いただくとともに、川上・川中の視点から今後の課題や川下への期待等についてご講演いただきました。

森林組合では、森林整備の他、大断面集成材やラミナ材の製造さらに、梱包材料の製造も行っていたりと幅広い業務を行っています。

また、町産材の加工等、官民連携で試行錯誤しながら作り上げた流通の仕組みなど貴重なお話を伺えました。



当麻町森林組合 加工販売課 課長 高沢 博様

後半は、「建築士からの提案～魅せる木のまちづくりに向けて」当麻町産材を使った住まい・まちづくり（木の使い方、見せ方）をテーマとして、当委員会において作成中の面友法人カヤックの「プレストカード」を使用した、「まちづくりゲーム」を活用しZOOMブレイクアウトルームにより4グループにわかれて、

- ・テーマ1「当麻町の木を道内、道外に発信（ブランド化）」⇒当麻町の木の商品化による経済活性化
- ・テーマ2「当麻町の木を住まいと暮らしに活かす」⇒木を活かした住宅地、商店街、まちの賑わいづくり

について討議し、村椿町長へプレゼンを行いました。



まちづくりゲーム

まず始めに頭の準備体操として、自己紹介兼ねて、様々なイラストが描かれたカード2枚から連想した「架空の昨日見た夢」を話してもらいます。その後テーマ1・2についてカードから連想して30秒以内にアイデアを発表します。

次に、場に出たアイデアに乗っかり、アイデアを膨らませます。これを全員で2周行います。

プレストカードの思いもよらないイラストから連想することによって、様々なアイデアが生まれ、各グループ盛り上がり楽しく討議することが出来ました。



グループワーク

村椿町長や高沢課長も各グループに入り沢山の意見を出していただきました。

町長からは建築士ならではの視点のアイデアや「全部ある当麻町」に沿ったもの、木と何かを組み合わせる新たな発想オンリーワンの製品などが提案されており、当麻町スタイルとして磨いていけるものがあつたと言っていました。



左：村椿町長、右：当麻町森林組合 高沢課長

最後に、今回のフォーラムは、オンラインでの開催となりましたが、当麻町には町産材を使った多くの建築物があり実際に現地でフォーラムを開きたかったところです。当委員会においては、来年、当麻町現地にてアフターミーティングの開催を検討しておりますので、ぜひご参加ください。

また、「まちづくりゲーム」では魅力的なアイデアがどんどん出るゲームとなっているので、今後も活用していきたいと思います。



町産材をふんだんに活用した当麻町役場庁舎

道士会の動き

道本部の主な会議報告（12月）

◆第3回情報委員会

〈開催日〉12月4日(土)

- 〈議題〉1) 会誌「北海道建築士」
・令和4年3月以降の掲載記事を策定
2) その他

◆第3回まちづくり委員会

〈開催日〉12月4日(土)

- 〈議題〉1) 令和3年事業報告
2) 令和4年事業計画・予算案
3) その他

◆第4回理事会

〈開催日〉12月10日(金)

- 〈議題〉1) 令和3年一般会計収支予算の流用(案)
2) 令和3年一般会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
3) 令和3年特別会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
4) (一社)北海道建築士会定款の改定(案)
5) 支部財政調整積立金の取崩し(案)
6) 令和4年一般会計事業計画及び収支予算(案)
7) 令和4年特別会計事業計画及び収支予算(案)
8) 令和4年定時総会
9) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)

◆第3回青年委員会

〈開催日〉12月11日(土)

- 〈議題〉1) 令和3年事業報告
2) 令和4年事業計画案
3) 令和4年事業予算案
4) その他(令和4年連絡会議・集い)

関係機関等会議参加予定（1月）

20日(木) 日本建築士会連合会理事会(東京)

上記 高野会長

編集後記

新年あけましておめでとうございます。長い間、会誌の発行に携わって頂いた、斉藤委員長、早川副委員長、柏倉さん、片岡さん、誠に長い間ご苦勞様でした。この間、会誌の内容も、特に、地方地域からの情報提供をポイントにして「西から東から」、「女性の窓」、「Coffee Break」などホットな話題で誌面をリニューアルすることができました。これからは、新メンバーによる会誌の発行となりますが、尚一層のリニューアル化で誌面づくりに努めて頂きますよう、ご期待申し上げます。

また、会員の皆様からのホットな情報提供をお待ちしておりますのでよろしくお願ひします。

情報委員会担当理事 伊藤 隆英(恵庭支部)

講習会・セミナーのご案内(1月)

監理技術者講習

19日(水) 札幌市

CPD認定プログラム(12月認定)

◆北の住まいるタウン まちづくりセミナー2022

〈日程及び会場〉1月24日(月) 13:30~16:00

〈単位数〉2単位

〈問合せ先〉北海道建設部建設政策課 TEL 011-204-5284

◆令和3年度第2回現場代理人等合同研修会(オンライン)

〈日程及び会場〉1月20日(木) 10:00~16:00

1月27日(木) 10:00~16:00

〈単位数〉5単位

〈問合せ先〉一般社団法人札幌建設業協会 TEL 011-261-6182

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中!



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■1月パスワード：Mur015

お知らせ

建築士事務所に対する立入指導実施する!

北海道建設部住宅局建築指導課から、建築士事務所の業務の適正運営を確保し、違反建築物の防止及び建築物の質の向上を図ることを目的に、立入指導を令和4年(2022年)1月4日から2月18日まで強化期間とする旨のお知らせがありました。

昨年度の立入指導において、数件の法令違反がみられましたので、これらを含め建築関係法令の遵守について、会員の皆様方への周知徹底を図るよう依頼がありましたことを併せてお知らせします。

情報委員会委員長/森 勝利
副委員長/前田 繁・立花智亜喜
委員/今村 敏彦・境谷 香奈・角張 隆昌
村山 賢司・徳留 裕敏

北海道建築士 No.293号

印刷 令和3年12月/発行 令和4年1月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL https://www.h-ab.com/

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番